

地域文化功労者表彰の被表彰者功績概要について

まつばら かずゆき
○松原 一征

昭和20年3月21日生まれ 現在80歳（特定非営利活動法人朝鮮通信使縁地連絡協議会元理事長（現名誉会長）、対州海運株式会社代表取締役会長、対馬芳洲会名誉会長）

同人は昭和49年に対州海運株式会社を設立し、社長業の傍ら地域の文化振興に尽力した。対馬市においては1980年より再現パレードが行われていた「朝鮮通信使」に関する顕彰活動や、対馬の偉人を顕彰する活動の実践及びその支援等幅広く対馬及び各地の文化振興に寄与している。

同人は文化振興活動のうち特に朝鮮通信使に関する歴史や歴史的意義を地域に伝える活動に注力しており、朝鮮通信使ゆかりの地域をつないだ交流と活動拡大を目的とする団体の設立を対馬市や関係者に提案し、1995年に朝鮮通信使縁地連絡協議会を結成した。

同人の特に顕著な功績としては、「朝鮮通信使に関する記録」のユネスコ「世界の記憶」登録に関する活動である。この「世界の記憶」登録は、日韓の民間団体による共同申請により達成されたものであり、多国間の民間団体による申請での登録は世界的にも稀有な例である。日本側の申請者となった朝鮮通信使縁地連絡協議会において、同人が代表として登録申請を力強く推し進め、韓国側の申請者との様々な意見の相違等、同人の活躍により解消できた諸問題は数多くあり、その功績は誠に顕著である。



地域文化功労者表彰の被表彰者功績概要について

○^{かせ}嘉勢^{てるた}照太（雅号：^{かせ}嘉勢^{がんしょう}願生）

昭和26年10月12生まれ 現在74歳（長崎刺繍工房代表）

「長崎刺繍」は地域文化の一つであるとともに、「長崎くんち」の衣装や傘鉾の垂れ等の諸道具の修理や新調に欠くことのできない伝統技術であり、平成22年には長崎県指定無形文化財（技術保持者）に指定されている。

現在、長崎刺繍の伝承者は嘉勢照太氏ただ一人であり、同氏は長崎市内に「長崎刺繍工房」を構え、着物や帯の縫い紋や装飾を専門とする傍ら、長崎くんちの傘鉾の垂れや衣装の修復・復元に取り組んでいる。

また、「長崎刺繍再発見塾」を開講し、後継者育成や普及活動を精力的に行うとともに、長崎歴史文化博物館や伝統工芸体験イベントなどで年間200名以上に刺繍体験を提供するボランティア活動を行っている。

このように、同氏の技術なくしては、くんちの傘鉾や衣装の修復は果たせず、「長崎刺繍」の保存と技術の伝承は成し得えなかったものであり、その功績は誠に顕著である。

